坂さんぽ ⑬

「灰爪の坂」その２

この日も大雨が降っていた。新政府軍は薬師峠へ攻め込み、峠を守っていた会津藩を駆逐した。そのまま海岸部へ向かって進軍し、灰爪めがけて大砲２発を撃ち込んだ。灰爪にいた諸生党筧隊は、薬師峠から敗走してきた会津藩と軍議し、ひとまず市野坪（出雲崎町）まで引くことにした。

朝五ツ（午前８時）には雨が止んで曇り空となった。市野坪には諸生党朝比奈隊が駐屯していた。ここで兵力を増強し、再び灰爪へと引き返す。

そこはすでに新政府軍が占拠していた。諸生党はこれを奪還するため、刀や槍を武器に灰爪の坂を勇猛果敢に突撃した。泥まみれの激しい肉弾戦の末、ついに丘の上までたどり着く。会津藩組頭の井上哲作は、この激闘の様子を「水戸藩大いに奮発、その山上へ白刃抜打、たおされ、たおされ、終にかけあがり、敵追払い」（『井上哲作戦争日記』）と書いている。

だがしかし、それはつかの間の勝利であった。やがて新政府軍の援軍が到着し、灰爪の丘の周りを取り囲んでいく。砲撃が開始されると弾雨にさらされ、なすすべもなかった。総崩れとなった諸生党は、寺泊、弥彦方面まで撤退した。

灰爪での諸生党戦死者は５３名（重傷後死亡者を含む）に及ぶ。北越での諸生党の戦いの中で、最大の犠牲者を出した激戦であった。諸生党撤退により、信濃川左岸には新政府軍の行く手を阻む者がいなくなった。一方、右岸では朝日山（小千谷市）で一進一退の攻防が続いていた。新政府軍は膠着した戦局を打破すべく、濁流の信濃川を左岸から強行渡河して奇襲攻撃をかける。５月１９日（新暦７月８日）、長岡城が落城した。

現在の灰爪の坂と供養塔（右下）

灰爪の畑から発見された４体の遺骨は、新潟大学医学部解剖学第一教室で鑑定された。それぞれ、顔面に鋭利な刃物による損傷が２か所ある３０歳前後で身長１６５ｃｍ前後の男性、右頭部に鋭利な刃物による斬創が２か所ある３０歳代後半で身長１４９ｃｍ前後の女性、傷のない２０歳代前半で身長１５１ｃｍ前後の女性、刃物による切創がある男性と思われる右上腕骨と判明した。

遺骨が発見された場所には、地元住民らの尽力によって、平成元（１９８９）年に供養塔が建立された。戊辰戦争から１５０年目にあたる今年の５月１７日、副市長をはじめとする水戸市の関係者が訪れ、供養塔の前で鎮魂の祈りを捧げた。供養塔は遠く水戸の地を向いて建っている。

諸生党を率いた市川三左衛門の辞世の句は、「君がため捨つる命は惜しまねど忠が不忠になるぞ悲しき」とされる。時代に翻弄されながらも崇高に生きた武士たちの魂は、故郷へ帰れたのだろうか。

※灰爪の戦いの経過には諸説あります。

●参考にした資料：『戊辰戦争全史 上』菊池明・伊東成郎 編(210.6 ホシ 1) / 『北越戊辰戦争史料集』稲川明雄 編(210.6 ホ)
『長岡城燃ゆ』稲川明雄 著(214.1IN) / 『長岡藩戊辰戦争関係史料集(市史双書 No.31)』長岡市史編集委員会・近世史部会 編(222 ナカ 31)
「灰爪向平遺跡」『柏崎市の遺跡 別冊Ⅰ』柏崎市教育委員会 編(214.1 カ) / 『多岐の会々報 第５号』店橋正英 他 編(224 タキ 5)
『新潟県の合戦 長岡・柏崎編』新沢佳大 他 監修(214.1 ニ) / 『水戸藩史料 下編全』徳川家 編
「水戸藩党争始末」『史籍編纂 第四』国書刊行会 編纂 / 『忠が不忠になるぞ悲しき 水戸藩諸生党始末』穂積忠 著
柏崎日報 2018年５月18日付２面 / 新いばらき 昭和52年７月11日付３面
●柏崎市立博物館埋蔵文化財事務所、柏崎市西山町事務所の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。